

## 【2】行動分析および【3】支援例

平成 年 月 日 ( ) 年 組 番 氏名

⑥	推論することが苦手な場合
行動分析	1 記憶力が弱い
	2 抽象的に考えることが難しい
	3 論理的に考えることが苦手である
	4 イメージをして、推測することが苦手である
	5 順序立てて物事を考えるのが苦手である



支援例	ア どの段階でつまづいているか個別に確認する
	イ さまざまな例を示すことで、論理化や抽象化のパターンを示し、それを利用して考えるように教材を工夫する
	ウ 考えや取り組むことを書き出すことで視覚化させ、それをもとに優先順位や重要さの順に並べさせる
	エ 要点やポイントになる言葉に印を付ける
	オ ポイントになることを絵や図に書いて、視覚的に示す

⑧	落ち着きのなさがある場合(多動・運動過多)
行動分析	1 じっとしていることが苦手で、いつもそわそわしている
	2 多様な刺激を整理するのが苦手である
	3 見通しを持って行動できない
	4 新しい刺激を求めて、次々と興味・関心が移っていく



支援例	ア 座席を教師の前や教室の中央にし、適宜言葉を掛けるようにする
	イ 見通しを持たせるために内容、方法、時間、手順などをあらかじめ知らせる
	ウ 授業の妨げにならない程度の行動は許容する
	エ 多動性を無理に押さえようとせず、授業中に小休止を設定したり、ストレッチ体操などを取り入れたりする
	オ 生徒に完璧な態度を求め過ぎない
	カ プリントを配付する係を任せるなど、体を動かす活動を取り入れる
	キ 休み時間などに十分体を動かす場面を設定する
	ク 対象となる生徒の行動特性を理解している生徒を隣に座らせる
	ケ 指導するときは生徒の人格や個性についてではなく、その行動について指導する
	コ 他の生徒の前で指導をしない
	サ 指導するときは生徒の人格を傷つけるような言葉や皮肉を避ける
	シ 困った行動をとっても感情的にならず、穏やかに理論的に解決する方法を提案する
	ス 机の上を整頓し、授業で必要な物だけ置くようにさせる

⑨	<b>衝動性が強い場合</b>
行動分析	1 後先考えずに思いつきで行動してしまう
	2 集中できる時間が短い
	3 自分の行動を客観的に振り返るのが難しいため、状況を理解して適切な行動をとるのが難しい
	4 他者の視点に立ったり、場の雰囲気を読んだりすることが苦手で、協調性に欠ける
	5 感情のコントロールが難しい



支援例	ア 望ましい行為、定着させたい行為は紙に書いて見える所に張っておくなど、生徒の理解のレベルにあわせて提示する
	イ 不適切な言動を示した場合は自ら気付くことができるように個別の指導をする
	ウ 不適切な表現をした場合、代わりとなる表現の仕方を教える
	エ ささいなことはできるだけ許容して、よい場面があればその場で認める
	オ 行動のルールや約束を前もって一緒に決め、約束が守れた時はそのことを評価する
	カ ルールはできるだけ明確で、生徒に合わせてできるものにする
	キ できごとを図示して、適切な言動を考えさせる

⑫	<b>その他の場合</b>
行動分析	1 感覚過敏(例えば音や触覚)がある
	2 運動がうまくできなかつたり、身体の動きがぎこちない
	3 手先が不器用で細かな作業が難しい
	4 自分を安定させるため、ぶつぶつ言うなどの行動をとる
	5 姿勢の保持ができない



支援例	ア 感覚過敏がある場合は、生徒の状況をよく観察し、その辛さを理解し生徒には無理をさせない
	イ 嫌な刺激を取り除く
	ウ 嫌な刺激をどれだけ我慢すればよいのか見通しを示す
	エ 本人、家族の了解のもと生徒が感覚過敏を抱えていることを周囲の生徒に伝え、理解してもらう
	オ 感覚過敏で辛い場合、生徒から教師へ申し出るように教える
	カ 生徒の運動能力を見極め、生徒のできる範囲の個別の課題や役割を与え、実践させ、評価をする
	キ 図や絵を描く、はさみなど道具を使う、文字を書くことに完璧さを求めない
	ク ぶつぶつ言うときのパターンをよく観察し、生徒から事情を聞くことで、生徒の抱える不安を理解し受容する
ケ 休憩を入れ、ストレッチなどを行い正しい姿勢を意識させる	